

## 研究協力をお願い

昭和医科大学では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

短期入院患者における入院時持参薬確認時の薬学的管理状況に関する実態調査研究

### 1. 研究の対象および研究対象期間

2024年4月1日から2026年3月31日に昭和医科大学藤が丘リハビリテーション病院に5階病棟に入院され、2泊3日以内で退院された患者さん

### 2. 研究目的・方法

本研究は、特定の病棟に手術・検査目的で短期入院する患者さんを対象に、入院時に生じている実際の服用状況（誤服用）の現状を調査することを目的としています。薬剤師による入院直後の確認と重篤化リスクを数値化し、短期入院における迅速な薬学的管理が医療安全の向上に果たす役割を調査します。本研究は観察研究であり、新たな検査や治療、追加の受診をお願いすることはありません。対象となる患者さんの年齢、性別、基礎疾患、持参薬の内容、管理状況などについて、既存の診療録から必要な情報を収集します。収集したデータは個人が特定されないように符号化した上で解析し、研究目的以外には使用しません。

なお、本研究はオプトアウト方式で実施します。研究への参加を希望されない場合は、お申し出いただくことで、いつでもデータの利用を拒否することができます。参加を拒否された場合でも、診療上の不利益を受けることはありません。

### 3. 研究期間

昭和医科大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「審査結果通知書の承認日」より、研究実施機関の長の研究実施許可を得てから2027年3月31日まで

### 4. 研究に用いる試料・情報の種類

患者さんの基本情報：年齢、性別、入院理由（予定手術、検査等）。自己管理能力（看護師面談記録）：服薬管理の主体（本人・家族等）。誤服用の実態：本来の処方内容と実際の服用状況の不一致（種類、頻度）。潜在的な重篤化リスク：検出された誤服用が放置された場合に想定される危害の程度（日本医療機能評価機構の基準に準じた分類）。介入時間：入院から持参薬確認（鑑別）完了までの時間。

**5. 外部への試料・情報の提供**

該当いたしません

**6. 研究組織**

研究責任者 昭和医科大学病院薬剤学講座 田中広紀

**7. お問い合わせ先**

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象者としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和医科大学病院薬剤学講座 准教授

氏名：田中広紀

住所：神奈川県横浜市青葉区藤が丘 2-1-1

電話番号：045-978-6770